

大学設置支援室 information

NEWS 武雄アジア大学のキャンパスが2月中に完成予定！

武雄アジア大学の開学まで残すところあと2カ月となりました。

2024年に着工された武雄アジア大学の校舎建設工事は、本年2月中の完成が予定されています。

武雄アジア大学では開学後、大学図書館などのキャンパス施設を広く市民の皆さまに利用いただくように計画されています。

【右写真：建設工事の様子（撮影日：令和8年1月8日）】



武雄アジア大学 ひとくち講座

武雄アジア大学では「地域理解」「国際理解」「経済・経営」など幅広い学問分野を学ぶことができます。4月の開学を前に、武雄アジア大学の教員からさまざまな分野のお話を“ひとくちサイズ”でお届けします。

【日本の「野球」とMLB——影響を与える側へ】

講師 増淵 敏之 客員教員
【文化コンテンツ学 担当】



日本の野球は長らく、アメリカ発祥の競技を受容し、独自に発展させた文化として語られてきました。しかし近年、その関係は一方通行ではなくなっています。例えばドジャースの大谷翔平、山本由伸といった選手の登場は、日本の「野球」がMLBに具体的な影響を与える段階に入ったことを示しています。

大谷翔平の二刀流成功は、MLBの常識を根底から覆しました。投打の分業を前提としてきたメジャーに対し、日本の育成環境が持つ「才能を早期に限定しない」思想が、結果として世界最高峰で実証されたのです。以後、MLBでは二刀流候補の育成や柔軟な起用法が真剣に検討されるようになりました。

山本由伸は、日本野球が培ってきた投手育成の「完成度」を体現する存在です。圧倒的な球速に依存せず、制球力、再現性、配球の妙味によって打者を制圧する姿は、パワー偏重になりがちなMLBに新たな評価軸をもたらしました。山本の即時適応は、日本的投手育成が体系的であることを示し、MLBのスカウティングや評価基準にも影響を与えています。

このように、日本の「野球」は技術や戦術のみならず、育成哲学や選手観においてもMLBに影響を及ぼし始めています。かつて追従する立場にあった日本野球は、いまや世界最高峰のリーグと対話する存在へと変貌しています。かつて1934年に全米選抜チームが来日した際に、全日本選抜チームが16連敗したが、その頃に比べるとまさに隔世の感があるのです。

日本のスポーツは、漫画や小説などのコンテンツにも展開し、観光にもつながっていることなどを授業では取り上げています。

次回の「ひとくち講座」もお楽しみに！

武雄アジア大学 市民講座シリーズ

【第11回】「世界に広がる母子手帳」

講師：日本WHO協会理事長、大阪大学名誉教授 中村 安秀 氏



申込不要
参加無料

「一冊の手帳」というシンプルな技術は、記録を通じて親子の命を守る仕組みとして国境を越え、多くの家庭に受け入れられています。本講座では、皆さんご自身の母子手帳にまつわる物語をお聞かせいただき、アジアやアフリカで普及が進む「デジタル母子手帳」の最前線についてお話しします。

日時：2月21日（土）13:00～14:30

場所：市役所1階ホール

学校法人旭学園 新大学設置準備事務局

☎ 0952-37-0203

主催：学校法人旭学園 共催：武雄市